

蔵王山安善寺

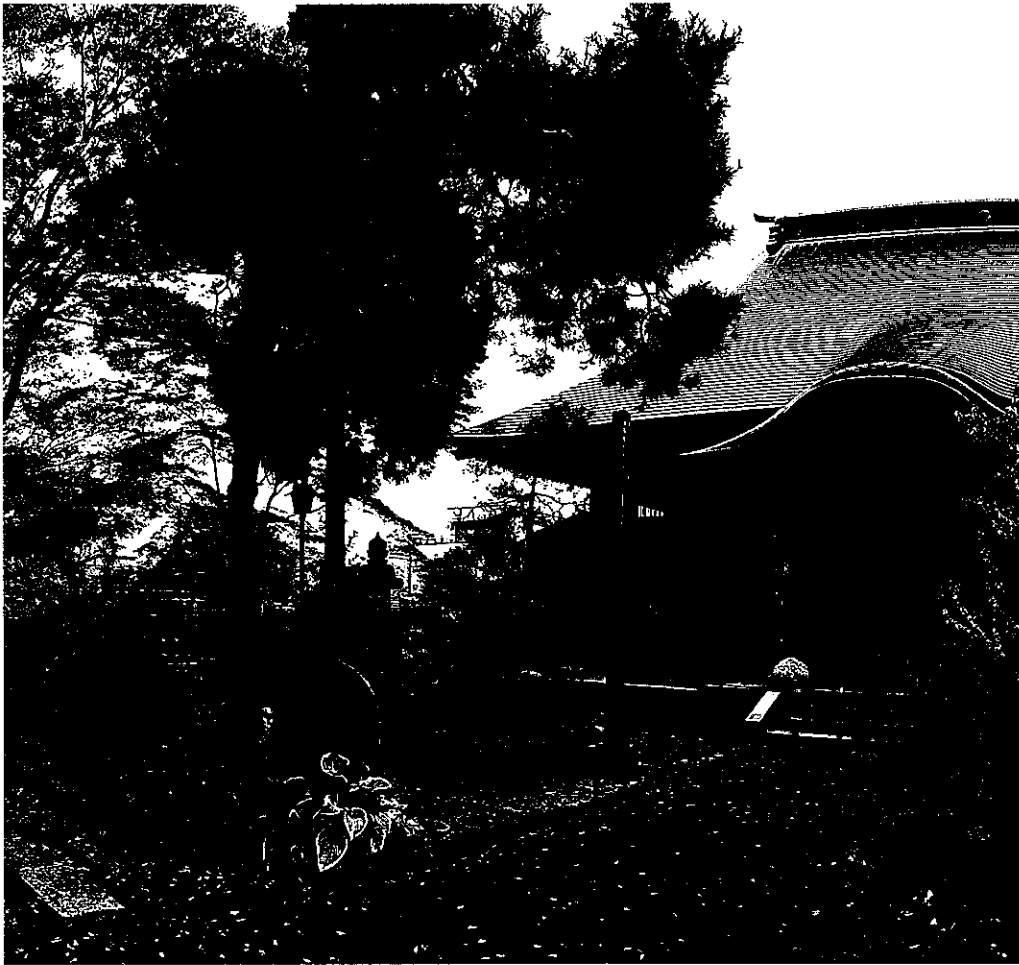
◆編集・発行人◆
近藤龍弘

〒940-0052
長岡市神田町1丁目4番10
TEL.0258-32-2811

◆スタッフ◆

小林国二・高橋潔・室賀清輝
高橋利春・屋代健・飯泉隆史
近藤マリ子・近藤真弘・近藤善信

後援・株式会社アサヒ
印刷・(株)北越時報社



ご家族の皆さままでご覧ください

新春

今年も宜しくお願ひ申し上げます

近藤龍弘

皆様方におかれましては、気持ちも新たに新年を迎えられたことと存じます。今年も平成、お寺の愛犬モモも自分の年とばかり、元気で庭を駆け回り回っております。

本年は平成三十年。「平成」の年号は一九八九年一月八日より始まり、二〇一九年四月三十日(平成三十一年)、今上天皇退位により改元する予定で、三十年と百十三日間にあたることとなります。それぞれの世代において、平成時代の思い出が、あることと存じますが、あと一年と四ヶ月で平成も終わります。

「年号」とは、広辞苑により「年につける称号。中国で、皇帝が時をも支配するという思想か

ら、漢の武帝の時(西暦紀元前一四〇年)に「建元」と号したのに始まる。日本では六四五年に「大化」と号したのが最初。天皇が制定権をもち、古くは辛酉・甲子の年のほか、即位(代始め)・祥瑞・災

異その他の理由によってしばしば改めたが、明治以降は一世一元となり、一九七九年公布の元号法も、皇位の継承があつた場合に限り改めると規定とあります。日本では「大化」から「平成」まで、およそ一三七〇年余りの間に二百三十近くの年号が交わりましたが、それぞれ国がよくなるように等の多くの願いが込められた年号であつたと思ひます。

【書経】大禹謨「兪り、地平天成にして三事は允に

治まる」の「地平天成」(地は地の変動がなく、世の中が平穏に治まること。天成は天の運行が順調で、万物が栄えること)。「春秋左氏伝」「内平外成」(国内がよく統治され、周辺

の諸国との関係も安定していること。世の中の平和な状態と、この二つの句が年号の「平成」の典故といわれております。近隣諸国をはじめ、世界平和を願ひ、日本国内が安定し、世界中の人々や国民の幸福を願う年号ではないでしょうか。

今年が年号の如く、民族、宗教、イデオロギー等々の違いを超えて、素晴らしい年となるよう心より祈念申し上げます。

【日々精進(三十九)】

恩を忘れず、恩に報いること

近藤真弘

冬の時期、寒くなると猫のボブは暖かい寝床を探してコタツや布団の中であぐらをかき、じっと寒さをしのいでいます。「ボブの独り言」の記事でご存知の方も多しと思えますが、現在お寺には猫の「ボブ」と犬の「もも」が一緒に生活しています。

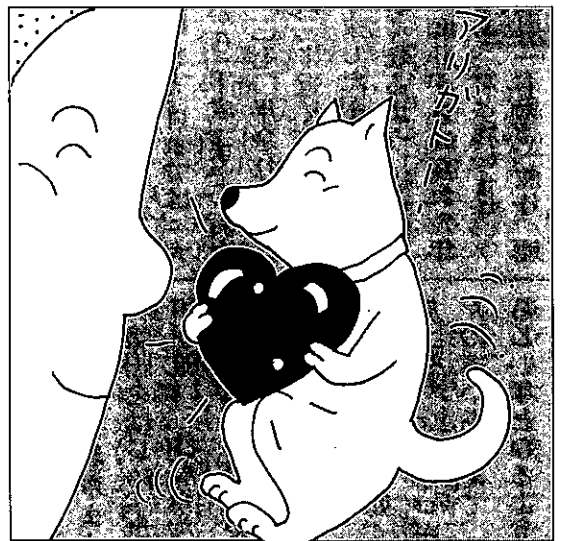
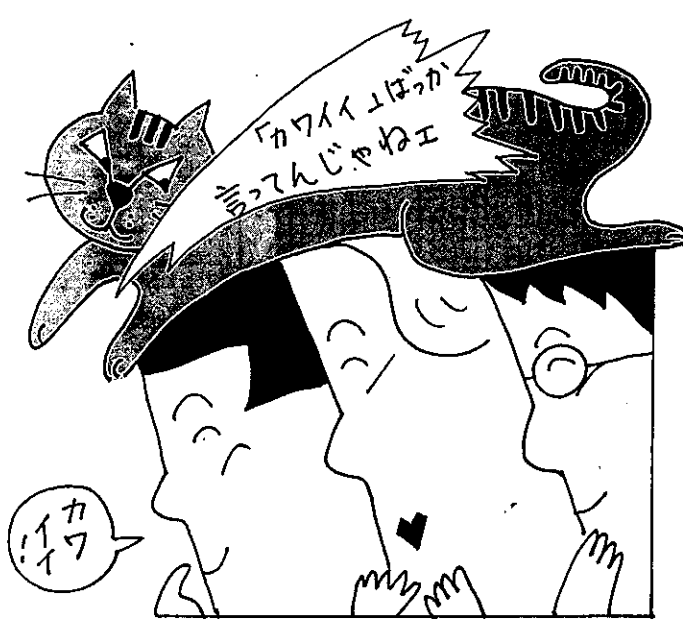
思い起こせば私が小学生の時に初めて「ペコ」という猫を飼ってから、三十年以上の間、猫、犬と絶えることなく一緒に生活をしていきます。中でも「ペコ」は小学生の頃から二十年以上一緒に暮らし、亡くなった時の悲しさは今でも鮮明に覚えています。先日、毎年楽しみにしている「新聞広告クリエイティブコンテスト」の最優秀賞が発表になりました。このコンテストは

毎年与えられるテーマに沿った広告を作り競い合うものです。今年のテーマは「捨て犬・捨て猫」でした。最優秀賞の作品はタイトルが「カワイイ?」で全体に猫の顔のアップの写像があり、そこに「カワイイばっかいつてんじ

やねエ。」と大きく書かれ、下に小さな字で「かわいさだけで飼ってしまう。それが、捨て猫・捨て犬を生んでいる」と書かれています。皆さんもご承知の通り近年はペットを飼う人が多く、まさにペットブー

ム時代です。町で犬を見ない日は無いくらい散歩をしている人も多く、ドッグランや猫カフェなど関連の施設も次々と作られています。そんな中捨て猫、捨て犬やペット虐待のニュースも後を絶ちません。

修証義というお経のなかに「病雀尚お恩を忘れず三府の環能く報謝あり、窮亀尚お恩を忘れず、余の印能く報謝あり、畜類尚お恩を報ず、人類争か恩を知らざらん。」という一節があります。要約すると、雀や亀でさえ助けられた恩を忘れません。動物ですら恩を忘れず恩に報いるのだから、正しく物事を考えることの出来る私たちは仏の教えに出逢ったことにどうして喜ばずにいられるでしょう



か。ということですが。

長野県の故・藤本幸邦老師は最後に安善寺でお説教をされた際にこの話を引用され、「お寺の犬も優しい顔をしていた。さぞかし大切に飼われているのでしよう。きつとその恩を忘れないだろう。我々人間も恩に報いることは大切なことです」とお話しされました。

動物を飼うということ、は当然簡単なことではありません。多くの方はそのことをしっかりと理解し、

家族同様に大切に暮らし

ています。月お経に伺うお宅にも犬や猫を飼っている方はたくさんおられますが、皆大切にされています。お寺には犬猫のお墓もあります。絶えずきれいな花が供えられています。

お互いにお互いの恩を感じ、亡くなった後も手を合わせてお参りする。そんな気持ちで猫や犬を飼うことが出来れば、捨て猫、捨て犬なんて無くなるだろうなど、つくづく感じます。

有意義だった参禅会の一日

大浦方 健



十一月六日、さわやかな秋日和のもと、私は長生会青年会の主催する参禅会に初めて参加いたしました。安善寺副住職の車に同乗させていただき会場の市内北荷頃の曹源寺に向かいました。

榎トンネルを通過すると周囲は晩秋の様相に一変。国道から外れて五分位で曹源寺に着きました。山村の寺院に似つかわしくない周囲を圧する構えにビックリ、ここで今月の坐禅にご一緒する近郷の

二十名位の方と対面。また、私達一行を迎える黒衣の法服をまとった青年僧の人達が十名。対面挨拶と同時に私は敬虔な気持ちに心が落ちいった。

控の間で参禅者一同お茶を頂いてから大広間に移り参禅の心得をお聞きして最初の坐禅に入った。

昼食の時間になり控の間に戻った。そこで食事を始める前に担当の僧侶の方から禅宗の食事の作法の説明がなされた。食事の最後は膳の中の沢庵を一つ残し、椀の全てに湯を注ぎ沢庵で椀を洗うようにしてから椀の湯を飲み干すと云うことであつた。これは道元禅師さまの一滴の雨水も無駄にしないという教えにもとづくことによりますと話されました。

膳には御飯は菜っぱを細かく刻んだ混ぜご飯、具沢山の味噌汁、胡麻豆腐、沢庵が置かれてあり、全て美味しく箸が進んだ。

食事の後二回目の坐禅に三十分。小休止をはさんで三回目の坐禅。終了に際し、控室に移動して三時のお茶菓子がふるまわれた。この時間を利用して係の方から坐禅に関

する疑問に応じますとの要請があり、安善寺の坐禅会でご一緒する方から「眼を閉じて坐禅に取組んだ方が集中できるのではないか」との問いがありました。長生会代表の近藤真弘さんが代表して次ように応じられた。「瞼を閉じると眼にスクリーンが降りた状態になり、いろんな想いが交錯しがちになる。禅の真意は、ひたすらに坐禅に集中して心を無にする事にある。眼を開いて禅と対峙した方が主旨に添うことになるのではな

い」と話された。当方も納得した。

四回目の坐禅に入る前に曹源寺ご住職さまのご厚意で堂内の持仏や寺の廊下に沿う欄間の石川雲蝶らの透かし彫りの彫刻の説明がなされた。

定刻四回目の坐禅が終了。閉講式の際、代表の方から終日慣れない坐禅に臨んだ参加者の労をねぎらう挨拶があり参禅会は終了した。

帰宅の用意をすべく控室に戻るとサプライズが待っていた。今日の昼食に出た御飯でお握りにしたものと胡麻豆腐をビニール袋に入れ希望者に配られた。私は家で待つ老婆に最高のお土産になると喜んでいただいた。

今日一日が貴重な体験であつたことに感謝しつつ、車はヘッドライトを頼りに暗闇の山路を一路長岡市街に向かつて走った。



山里に
法院護る人のあり
雁も知ってか
鳴く声 高し

父への想い、今ありて

林 良紀



平成二十九年春、我が家（ママ）に思わぬ出来事が起きました。八十六歳の父は、それなりの老いはみられたものの、自分のことは他人に頼ることもなく元氣なおじいちゃんでした。父は、群馬県水上市藤原村で生まれ、中学を卒業後に新潟鉄道管理局へ就職をしました。柿崎駅の勤務で退職しましたが、

その仕事ぶりを知る人達からは、「まじめ、几帳面、仕事ができた」などお誉めの言葉をたくさん耳にしました。第二の人生では、仕事や町内、地域の役員など、人柄を認められ長く勤めていました。いつの頃からか書道に励み、市展や職場の作品展にも出展していたようです。毛筆だけでなく硬筆

も達筆で、子供の頃からその字を見ていた私は、同じようになりたいと練習をしましたが、まじめさが違うのか他人から字が上手だねと言われる程度に留まっています。

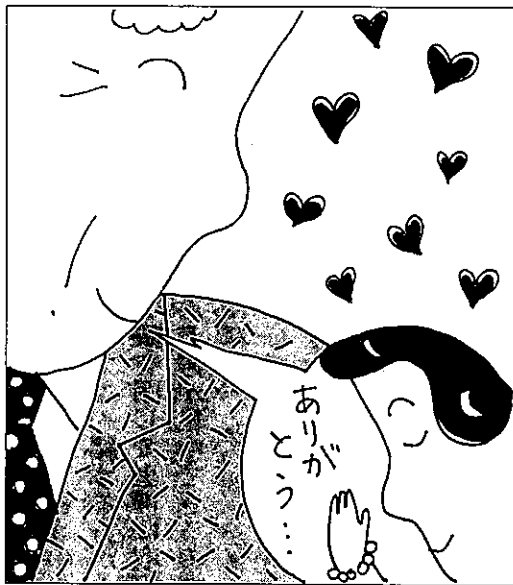
趣味は多彩で、写真撮影もその一つ。職場や町内会の旅行、もちろん三人の孫のたくさん写真が残っています。カメラのデジタル化に伴い所有数が増え、気が付くとパソコンを買いデーター保存や印刷方法がわからず取扱書とにらめっこをする姿を何度も見かけました。印刷した写真に吹き出しをつけ4コマ漫画のように作り、孫たちと出かけた先の写真は楽しそうにしているのがよくわかるもので家族を喜ばせてくれました。

ゲートボールをやり始

めたと思つたら、いつの間にか審判員資格を取っていて、団体の役員も務めていました。

孫の通う小学校に地域の先生として指導にも行きました。孫にかつこよく見て欲しかったのかもしれません。

中越地震で自宅に大きな被害を受け、父母と私たちは別々に生活をしました。2年程で改修が終わり再び一緒に生活を始めたものの、しばらくして母が他界、2年後に姉が他界し、悲しい出来事



が次々と起きました。そして今年の春、父が突然他界しました。あまりに突然で、戸惑うことばかりでした。

子供として、父の背中を追いかけて、追いついたと勘違いして最後は寂しい思いをさせたような気がしてなりません。その気持ちを忘れずに、毎日仏壇に手を合わせようと思います。合掌



第二十五回 KAKA笑の会 一人芝居と健康落語を堪能

第二十五回目を迎えた KAKA笑の会は、平成二十九年十一月七日(火)、女優・和泉妃夏さんに一人芝居と健康落語を演じていただきました。

約九十名ほどの来場者の中、薄明りの本堂に、衣装に身を包んだ和泉さんが、ゆつくりと般若心経

を唱えながら入場され、一人三役で、それぞれの役と多様な情念を、言葉と舞、効果音で表現をされ、迫力ある妖怪を演技して下さいました。般若心経は、安善寺での公演が決まってから覚えられたとお話をお聞きしてビックリしました。

休憩後の健康落語は、メイクも衣装も変わり同一臓物とは思えないくらい題名のとおり、人を旅するユニークな健康落語を披露していただきました。



会員が持ち寄り、下さった手料理の数々に、感激して下さったよう

第二十六回目は、久々に「精進料理の会」を開催する予定です。指導して下さる方は、副任職の修行時代の後輩で、現在、曹洞宗青年会が主催している「味来食堂」講師・「フレンチレストラン幽庵」シェフ(箱根、仙石原)をしておられる折橋大貴さんにお出で頂ける事になりました。

日程は五月十一日(金)を予定しております。詳細はお寺にお問い合わせ下さい。

私の愛ネコたち

高野 伶子

オスのクロちゃんが初めて我が家に来たのは十二年前です。生まれて半年で友達からもらい受けました。

穏やかな正確でとても甘えん坊。頭をなでてやるといつもノドをゴロゴロ気持ち良さそうに眼を



細めて悦んでいます。時にはお腹を上にして大字になって昼寝しています。幸せそのものです。

また、もう一匹のメスネコは、八年前の夏に隣の屋敷に捨てられていたのを飼うようにしました。まだ乳離れしたばかりのよ

うな小ちゃんな赤ちゃんネコでした。夜中になると家の外から火がついたように大きな声で泣き叫び、「ああ、もしかししたら捨てられたのかな？」と思

が、やはりニャーンニャーンと泣いているので、私が大きな声で「おいでおいで！」と云ったら、隣の裏の草むらから出て来て、私から5mくらい離れたところでピタッと止まり、そこから近づこうとはしません。仕方なくお皿にキャットフードを入れて近づくと、また草むらの方に逃げて行ったので、お皿をそのままそこに置いて家の中に入り、しばらくして様子を見に行ったら、お皿は空になっていました。そして、夕食もまたお皿に入れ、食べては草むらに戻る、そんな日々が三週間くらい続きました。

だんだん慣れてきたので、今度はお皿を玄関の中に入れ、食べている間にそつと戸を締めたところ、案の定食べ終わつた後外に出られないのでパニックになっていました。その時は戸を開け草むらに戻してやりました。そんなある日、クロちゃんが玄関にいた時、すんなり入って来てクロちゃんが見ている前でガツガツとフードを食べ、いつものように草むらに帰るかな？と思つたら戻らず、逆にクロちゃんに付いて家の中に入ったではないですか。その時、「ラッキィー！」と思いました。それ以来、草むらに戻るとは云わなくなり、すっかりクロちゃんと仲良しになったのです。「ミミ」と名前をつけました。

警戒心が強く、人に懐かない性格ですが、心やさしいクロちゃんとはとても相性が良く、じゃれあつたり、追っかけっこしたり、いつも仲良く遊んでいます。夜遅く私が帰宅してもかならず二匹共に玄関に出迎えてくれます。ポントにうれしいです。私にと



つてかわいい子供たちであり相棒でもあります。時々二匹共、外に脱走します。外で虫など追っかけたり、草など食べたりして遊んでストレス解消して家に戻ると、ネコは昔からきれいな好きだといわれますが、自分の体をなめてきれいにします。いつもクロちゃんの方が先にいねいになめてあげ「今度は俺にもお願い！」とでもいうように、そつとミミちゃんの方に頭を近づけ催促してなめてもらっています。そんな光景を見ているとつい笑顔になります。じつと見入つてしまします。至福のひとつときでもあります。

副住職 通信

『落ち葉で焼き芋』

昨年企画していた「落ち葉で焼き芋」ですが、予定していた十一月二十三日と二十五日が両日悪天候のため、やむを得ず中止させていただきました。今年の秋は天候のことも鑑みて、一昨年前に開催した十月下旬に行いたいと思います。開催日が決まりましたらこの紙面でご案内させていただきます。尚、燃やすことの出来なかつた落ち葉はごみ焼却場に持ち込み総重量は約一・五トンでした。

『映画制作』

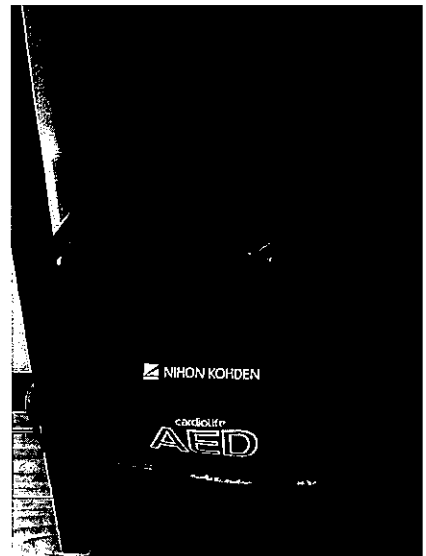
私が所属しています全国曹洞宗青年会では現在映画の制作事業を行っています。映画のタイトルル

は『典座(TENZO)』です。典座とは禪寺において食事を作る責任者のことです。今回の映画は禪寺の食事を通して、限りなく循環を続ける「いのち」に感謝を捧げながら、いただいていることを表現し、現代人が忘れかけている「いのち」を頂く有り難さを提起する内容を検討しております。

映画は十五分のショートムービーで、最終目標としてはカンヌ映画祭のシヨートムービー部門の受賞を目指しています。これは話題性を作ることでより多くの方にメッセージとして目にしていたことが出来るという目論みもあります。私が委員長を務めている教化委員会という委員会が映画の制作委員会であり、責任も重大ですが、より多くの方に禅を紹介してその内容を伝えられるよう頑張ります。

『AEDについて』

以前この紙面でもご案内しましたが、安善寺では五、六年前から「自動体外式除細動器(AED)」



禅を世界へ、そして未来へ
青年僧による短編映画

二〇一八年十月完成予定

— TENZO —

全国曹洞宗青年会

を設置しています。設置時には使用講習会もあり、近所の方にも声を掛け、いざというときに備えています。このAEDについて先般、長岡市消防本部より連絡があり、AEDを一九番通報者等、誰でも貸出してもよいかと問い合わせがありました。当然こちらでは協力の旨お伝えいたしました。長岡市のホームページにも「AED貸出し協力施設」として掲載されるそうです。使われずに越したことはありませんが、人命救助の一助になれば幸いです。

旅立ち

成廿九年九月一日(十二月末日まで)

川上佐代子様 九月四日寂

長岡市三島新町

金子 利男様 十月五日寂

長岡市中島

杉本カツエ様 十月十一日寂

長岡市関原町

平林百合子様 十一月一日寂

長岡市若草町

福田 憲一様 十一月一日寂

長岡市東神田

小山 一枝様 十一月廿日寂

長岡市上前島

福島 昌子様 十一月廿三日寂

長岡市袋町

板山智江子様 十一月廿七日寂

長岡市山田町

梶 義博様 十二月五日寂

長岡市寺泊

小林 武司様 十二月六日寂

長岡市西新町

鈴木久夫様 十二月十八日寂

阿賀野市若葉町

五十嵐亮様 十二月廿二日寂

長岡市大町

ご冥福をお祈りします。

ボブの独り言

今年もまた、よろしく！

ボブの独り言



あけましておめでとう
ございます。

昨年は、十一月の中旬に初雪が少しつもりました。木々を見上げると、まだまだ銀杏や櫻の葉が沢山残っているのに、先が思いやられるようでした。その後は長岡には珍しく、晴れた日も多く、ペランダに出てゴロゴロ

している、二階に洗濯物を干しに来たパーバに

「あら、ボブちゃんお久しぶりね」なんて声をかけてもらえるものですから、嬉しくつて…。

十二月はお寺も何かと人の出入りが多く、落ち葉掃きと庭の木々の冬囲いには、シルバー人材センターの方々が十八名も来ら

れて二日間の作業、終わって木々を見上げながら

「まだまだ、沢山残ってるね」。見上げると紅葉してない葉も多く、住職が「何年か前に、台風が来て、葉っぱが一度にみんな落ちてしまつた事があつたな…、その年は落ち葉掃きも一度に終わって楽だったのに」と、ポツリとひと言。

そんな年もありましたね。葉が残つたまま雪が降ると、春先がおもいやられますからね。

恒例の本堂の大掃除、檀信徒の方々や家族、十三名で、お位牌を一体ずつおろしての作業、みんな終つたあとは、お鍋を囲んで、楽しそうな声が続いていました。来年もみんな元氣でお願いしますね！
年末も押し詰まつたあ

る日、住職とパーバが筆記用具を持って、二階から順番に障子の数を数えながら「全部張り替えると、九十枚以上だ」これもシルバーさん頼みです。数が多いのでお寺で二日か

りの予定でしたが、何と一日で終了…、凄いパワーですね！新しい障子で新年を迎えらるのは気持ちが良いものです。

長岡を出てから関西の方が長くなった二番目のお兄ちゃん。初めて家族三人で、長岡で年末年始を迎える事になりました。パーバが、嬉しそうに走りまわる姿と賑やかな声が今から想像出来るようです。 ニヤーン！

編集 雑感

平成三十年の幕開けです。皆様それぞれ穏やかなお正月をお迎えのこととお慶び申し上げます。私は半年前、正確に言うと七月一日よりタバコを止めました。それまで五十二年間、十八歳から一日二十本、酒の入る日は三十本と吸っていたのですが、お医者様から「酒かタバコのどちらを取るのか」高血圧に糖尿病、そして尿蛋白とこのまま数値が上がってくるのを医者として黙って見ているわけにはいかない、という訳でした。タバコの値上がり等もあつたので、数年間免税店での購入を心がけて無税のタバコを吸わせていただいていた

のですが、六月三十日最後の1本を吸って止めました。会社でも喫煙所に行かなくとも良いし、空港に行つても駅に行つても喫煙所を探さなくとも良く、同行者と同じ場所で歓談出来て時間にも余裕が出来て良いことづくめです。自分で測る血圧はほとんど変わりないのですが、先月医者が測つたら125だとのこと。あまりにも良い数字でびっくりしました。

体に良いとは思いますが、ゴルフの時は大変です。ホール間で待ちのあつた時、1ホール1本吸っていたものから仲間が吸っているのに私はやることありません。しかたなく深呼吸して自然に肺も清らかになつていくことでしょうか。

最近はどこがどう変わったという事もありませんが、何か内臓が清らかになつている気がする事と、タバコを吸う時間が要らないので余裕を感じられる新年です。

お便り原稿用紙

季刊誌では、壇信徒・読者の皆さまと、ごいっしょに誌面をつくりながら、コミュニケーションを深めたいと思います。ハガキまたはお手紙、ファックスなどで、お気軽にお便りをお寄せください。お待ちしております。

原稿の例

- 思い出話／ご家族、ご先祖、お寺の思い出話など。
- 私に言わせて／家事や子育てのお話、身近な出来事など。
- 教えてください／仏事のしきたりや疑問（編集部や住職がお答えします）など。
- 嬉しい・楽しい／嬉しかったこと、楽しかったこと、悲しかったこと、怒ったこと。